

青郷小だより

令和4年 7月号
高浜町立青郷小学校



受け止め 認める



毎日欠かさない子ども達の水やりと、真夏のような日差しをあびて、2年生のミニトマトが赤い実をつけ、1年生のアサガオがきれいな花を咲かせ、子ども達の背丈を超えました。

先日、あることを調べるために、いろいろな資料を見ていたとき、佐賀県の中学校で実際にあったことを紹介する記事が目にとまりました。

〈佐賀県のある中学校〉

いわゆる「荒れた学校」で、生徒は先生の言うことを聞かず、生徒同士の暴力が毎日のように起こっていました。

その学校で劇団を招いて、オペラ的一幕を演じる体験活動がありました。劇団員が声をかけると、問題行動が目立つ生徒は、劇団員の指示を全く聞かず、反抗的な態度をとっていました。

しかし、不思議なことに、劇団員はその生徒を注意したり叱ったりすることはありませんでした。そればかりか、反発するその生徒に何度も何度も声をかけ、アドバイスを続けました。

すると、生徒の様子が少しずつ変わり始め、演技に参加するようになり、最後には劇団員から、ほめられるようになりました。

公演が終わり、劇団員を乗せたバスが学校を出るとき、その生徒は目に涙を浮かべながらバスに手を振っていました…

もう20年以上前のことですが、新聞記事を見て驚いたことがありました。

それは、小学校で高学年のときに担任をした女の子が、高浜中学校に進学後、若狭地区の陸上大会に選手として出場し、女子200m種目で見事1位になったという記事でした。

その子は、どちらかという体育は得意ではなく、足も速くなくて、体育大会の徒競走では、他の子から遅れてゴールするような子でした。中学校では文化部に入るのかなと思っていました。

その記事を見てからしばらくして、偶然に部活動帰りのその子に会いました。

「おめでとう！ 新聞見てびっくりした。すごいな、どんな練習をしたん？」
「中学校の先生が、“走り方きれいだな”とってくれたことがうれしくて、走ることが大好きになったんです！ 特別な練習なんてしてませんよ。」

(裏面に続きます)

その女の子を「運動に向いていない」と勝手に決めつけていたことを、とても反省させられました。

「この子は、こんな子」と決めつけたり、その子のよくない行動だけに目を向け、何とか行動を直させようと、注意が多くなったりすることがあります。

子ども達が問題行動を起こしてしまうときには、その子自身が悩みやストレスを抱えていることがよくあります。

学校では、「この子は、なぜ、こんなことを言ったりしたりするのだろう」ということを考え、その子の心に寄り添うことを大切にしていきたいと考えています。

青郷の子ども達を丸ごと[受け止め]、そして「認める」ために、新たな取組を始めていきたいと思えます。



熱中症対策



連日30度を超える厳しい暑さが続いています。

学校では、毎日エアコンを稼働させ、水分補給の機会を増やすなど、熱中症対策に努めています。

また、下校時には「マスクを外してポケットに入れましょう」「お茶を飲みましょう」と声をかけてから下校させるようにしています。最近は冷たいネックタオルなどを首に巻いてくる子ども達を見かけるようになりました。

ご家庭におかれましても、多めのお茶の持参など、熱中症対策にご協力をよろしくお願いいたします。

夏休みの課題



この間、ある学年の男の子から「一生のお願いやから、宿題を減らして」と頼まれました。その場では「努力してみます」と答えました。

自分が子どもの頃を思い返してみると、「やらされた宿題」はあまり身に付かなかったけれど、「自分から学習をしたとき」は楽しく、今でもそのときの学習内容をよく覚えているように感じます。

先日、先生方に話し合ってもらい、夏休みの課題はできるだけ少なくし、「自分からやってみよう」という課題を工夫することにしました。

夏休みを楽しみにする子ども達の笑顔、夏休みを終えたときの生き生きとした子ども達の姿を見ることを楽しみにしたいと思います。

※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。
ぜひ、ご覧ください。



〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉

〈QRコード〉